大阪建設工業新聞

本構築の誇り持ち

近畿の魅力と進取の気質

近畿地方整備局長　木下　誠也

近畿の社会資本整備に格別のご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

昨今の我が国の経済状況としましては、景気は厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポは緩やかになっているところとなっております。当面は、雇用情勢が悪化するなかで、厳しい状況が続くとみられるものの、平成二十一年五月に「経済危機対策」に基づく補正予算が成立し経済対策の効果が景気を下支えすることが期待されているところです。

近畿地方整備局におきましては、平成二十一年度当初予算として直轄事業と補助事業を併せ九千六百十四億円の予算が配分されたところであり、また、補正予算では直轄事業と補助事業を併せ三千三百七十七億円をもって、①底力発揮・二十一世紀型インフラ整備②地域活性化等③安全・安心確保等④低炭素革命、を推進するために必要な事業を進めていくこととしています。

また、併せて、事業の執行に当たっては、景気回復に全力を尽くす観点から、過去最高水準の前倒しに努めているところです。

一方当局では、現在、概ね十年後の関西の目指す姿やそれを実現するための戦略やプロジェクトなどを示す『近畿圏広域地方計画』、また、広域地方計画に示される地域戦略を実現するための五年間のインフラ整備の具体的方針を示す『近畿ブロックの社会資本整備方針』の策定に取り組んでいるところであり、両計画は、まさに「車の両輪」となって近畿の将来を描くものとなる予定です。

今後、近畿圏がそれ一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

なお、『近畿圏広域地方計画』、『近畿ブロックの社会資本の重点整備方針』は、現在、広く皆様の意見を聴くためにパブリックコメントを実施しているところであり、いただいた意見を踏まえて夏頃の策定を目指しています。

今後とも、近畿の社会資本整備に皆様のご理解をいただきながら、ご期待に応えることができるよう、諸課題に全力で取り組んでいく所存です。皆様の

大阪北共同溝や　第二阪和も鋭意

～寝屋川市高宮間三・九キロを大阪北共同溝交野寝屋川地区工事（発進立坑（仮称）間一七・六キロの共同溝・立坑工事を進める。現在、交野市星田北（仮称）間二十一キロ）で二十二キロ、一工区、中間立坑一箇所、ノ

おり、現在は、専用部の高架構造物工事や一般道の工事が概成したところから順次、電線共同溝、副道、自転車歩行者道、遮音壁、舗装等の工事を進める。

大阪北共同溝は、枚方市長尾東町～門真JCT（仮称）間一七・六キロの共同溝・立坑工事を進める。現在、交野市星田北淡輪高架橋間連続（五二メートル）ロ橋上部工事（NATPCラーメン一一メートル）を発注し、工事を図る。

なお、淡輪高架橋を進める。

また、として南事（NAT

し、淡輪を行う阪南山中地事、南山中